教育目標「たくましい子」　重点目標「夢中になって遊ぶ子」
研修テーマ「自己肯定感を高め、豊かな感性と表現力を育む~友達と一緒に楽しむ子を目指して~」

# ぽっかぽか

天間幼稚園
園長だより
第　８　号
令和５.１.10

## 子どもたちをやる気にさせるキーワードは、私たち大人がやる気を後ろ姿で示すこと

あけましておめでとうございます。旧年中は、保護者の皆様、地域の皆様には、本園の教育活動に多大なご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。子どもたちが幼稚園に戻り、元気いっぱいの挨拶と満面の笑顔で年末年始のエピソードを語る姿に、私たち教職員もたくさんの元気をもらっています。

今年の干支は「癸（みずのと）卯（うさぎ）」です。**「癸（みずのと）」**は、種子が計ることができるほどの大きさになって、春の間近でつぼみが膨らみ、花開く直前を意味し、また、**「卯（うさぎ）」**は、冬の門が開き、飛び出る状態を表しているそうです。これは、まさに、**「これまでの努力が花開き、実り始めること」**、令和５年がまさに、新型コロナウィルス感染症を克服して、新しく飛躍する時、新しい世の中を作り上げる年とも考えられます。

**「卯（うさぎ）」**は、穏やかで温厚な性質であることから、**「家内安全」**を、また、その跳躍する姿から**「飛躍」**、**「向上」**を象徴するものとして親しまれてきました。この縁起にあやかり、実り多く、幸福な年となりますようお祈りいたします。

さて、お正月恒例の箱根駅伝の観戦は、私にとっては最も欠かせない年頭行事の一つです。
箱根駅伝は、東京の大手町の読売新聞社前をスタートして、箱根町芦ノ湖までを往復する全長217.1ｋｍのコースを10人でつなぐ駅伝で、一人21ｋｍ（富士駅から沼津駅位）も走るレースですが、今年は、駒沢大学が総合優勝し、青山学院大学は総合３位の成績でした。
青山学院大学は、今から17年前、原晋監督が就任して、５年目にやっと出場したときは、最後から二番目、22位だった大学です。原監督は、中国電力に陸上選手として活躍が期待されて入社しました。しかし、十分な成果を残すことができず５年で退部、10年間中国電力の一介のサラリーマンとしてスタートした人です。その人が、今から17年前、安定した仕事を投げ打って退職し、退路を断ち、裸一貫で青山学院大学の監督になることを選びました。そして、就任を認めてもらうためのプレゼンで、就任して３～５年で箱根駅伝出場、５～９年でシード校に昇格、10年で優勝すると宣言したそうです。

実際には優勝は１年遅れましたが、「ワクワク」、「ハッピー」、「サンキュー」、「ハーモニー」、「ゴーゴー(２位)」、「やっぱり」、「絆(４位)」、「パワフル」、「ピース(３位)」大作戦で、どの大学も懸命に練習し、上位を狙う中で、１０年連続５位以内というすばらしい結果を残しています。
原監督の大切にしている言葉は「準備とこだわり」だそうです。一人一人が目標を持ち、そのための準備をしっかりと行い、互いに支えあって、自分の意思で、あたり前のことをあたり前に、こだわりをもって取り組むことが結果につながると語っています。
今回の駒沢大学の総合優勝も、原監督の言う「準備とこだわり」と「大八木監督に大学駅伝三連覇をプレゼントしたいという選手たちの強い意志」の賜物だったと感じています。

上記のことは、子どもたちの教育の在り方についても大きな示唆を与えてくれています。
子どもたちは、年の初めに、「あんなことがしたい。こんなことができるようになりたい。」とそれぞれが目標を立てたのではないかと思います。１月10日（火）の始業式には、子どもたちとともに、教職員も今年１年の目標を一人一人発表しました。
**「子どもたちをやる気にさせるキーワードは、私たち大人がやる気を後ろ姿で示すこと」**
目標を持って、みんなで支え合いながら、明るく前向きに取り組むかっこいい保護者、教職員、地域を子どもたちに示してまいりましょう。そして、新型コロナウィルス感染症に負けず、子どもたちと一緒になって、**私たち自身の大きな夢も実現させましょう。**
本年も、59名の子どもたちが、うさぎのように、笑顔いっぱい、夢に向かって大きく飛躍できる年となりますよう、ご支援ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

# うさぎとかめのお話

うさぎとかめが山のふもとまでかけっこ競走をしました。
どちらが勝ったかというと、皆様ご承知の通りかめが勝ちました。
うさぎが負けてしまったのは、途中で居眠りをしてしまったからです。
目が覚めてから、慌ててかめを追いかけましたがもう遅い、足が速いはずのうさぎでしたが、かめに負けてしまいました。だから、自分の力を過信して「油断してはいけないよ」ということを教えてくれています。

しかし、この話にはもう一つ大切なことが隠されています。それは、うさぎとかめの目標が、最初から違っていたということです。
うさぎは、かめに負けないということを目標にしていました。だから、ゴールのことは後回しで、かめとの競走なら楽に勝てると思っていたのです。
それに対してかめは、自分の足の遅いことをよく知っていたので、自分の目標を､山のふもとのゴールに確実にたどり着くことにしていました。ゴールに着くことが目標ですから、かめは、自分の力とうさぎの力を比べません。自分の目標をしっかりと持って、ゴールにたどり着くことができたのです。

くやしかったうさぎは、かめともう一度かけっこをする約束をして、今度はうさぎが勝ちました。しかし、勝負の後ににこにこと微笑んでいるかめを見て、うさぎが「どうして負けたのにそんなに喜んでいるんだい？」と尋ねました。
するとかめは、「一度目よりもタイムが縮まったから」と答えたそうです。
かめは、今度は、前の記録、過去の自分と勝負していたのです。

うさぎは、悔しくて仕方ありません。そこで、もう一度かめと競争をする約束をしました。今度は、川を渡ってゴールを目指すコースです。
うさぎは、川なんて自分の得意のジャンプ力で一っ跳びと思って喜んでいました。
ところが、レース当日は、川の水がとても多くて泳げませんし、跳び越すことなどできません。困ったうさぎは、素直にかめにそのことを打ち明けました。すると、泳ぎの得意なかめから、僕の背中に乗って向こう岸に渡るといいと提案されました。
無事向こう岸に渡ることのできたうさぎは、今度は、かめを川から引き上げ、自分の背中に載せて､得意なジャンプ力で一気にゴールに向かって、かめと同時にゴールインしました。
そして、お互いの泳力とジャンプ力を讃え合いました。

私たちはどうしても自分と他の人を比べてしまいがちです。そして、自分よりできる人と比べて、自身が劣っていると思って、悩んだり落ち込んだりしてしまいます。時には、自分より優れている人をねたんだりします。でも、自分が何をしたらいいのか、目標がはっきり見えると、他の人のことは気にならなくなりますし、頑張っている人を応援したくなります。

特に、すみれ組の皆さんが小学校に入ると、いろいろな個性をもった友達に出会います。そのとき、大切にしてほしいのは、その友達と比べて優劣を判断して一喜一憂するのではなく、天間幼稚園で過ごした日々に自信をもって、自分自身の持てる力を存分に発揮して、声を掛け合い支え合って、自分自身の夢・目標に向かってチャレンジし、今年の干支であるうさぎのように大きく飛躍する年となることを願っています。